

3年D組 外国語科 単元設計・学習指導案

指導者 河野 操

1 日時（場所） 令和5年10月30日（月） 13:50～14:40（3年D組教室）

2 教科領域別研究テーマ

生徒が他者や社会との関係性の中で、自由に表現できる授業展開とメタ認知力を高めるための評価の工夫

3 研究テーマ設定の理由

多様なものの見方・考え方がある現代社会では、個性や考え方が異なる他者のことを理解し、意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り、よりよい関係を築こうとする態度が求められる。外国語教育では、これらの能力を高めるために、スキルの習得だけでなく、スキルを生かし、互いの考えを理解し、折り合いを付けながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。社会や他者と積極的に関わり、よりよい人間関係を築こうとする態度は、変化の激しい社会で生きていくために必要な資質・能力につながるものであると考える。

本研究では、英語を通して生徒自身に他者とよりよい関係を築いていこうとする力を身に付けさせるために、教師がそれをうまく発揮させる場面を授業の中で設定する。また、メタ認知力を高めるための振り返り方法を工夫する。そうすることによって、より広い世界を視野に入れた変革を起こす力を持った生徒の育成ができると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名:Unit 4 Be Prepared and Work Together）

(1) 単元目標

- 間接疑問文や後置修飾を用いた文の構造や意味を理解し、防災や避難などについて伝え合うことができる。 「知識及び技能」
- 災害時に気を付けることや避難する時に注意すべきことやできることについて、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 災害時に気を付けることや避難する時に注意すべきことやできることについて、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
間接疑問文や後置修飾を用いた文の構造や意味を理解し、防災や避難などについて伝え合うことができている。	災害時に気を付けることや避難する時に注意すべきことやできることについて、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	災害時に気を付けることや避難する時に注意すべきことやできることについて、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

(3) 指導計画（全 10 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・間接疑問文の文構造を理解し、運用する。	知		・間接疑問文の文構造を理解し、適切に使っている。 （ワークシート）
2	・現在分詞を使った後置修飾の文構造を理解し、運用する。	知		・現在分詞を使った後置修飾の文構造を理解し、適切に運用してる。 （ワークシート）
3	・過去分詞を使った後置修飾の文構造を理解し、運用する。	知	○	・過去分詞を使った後置修飾の文構造を理解し、適切に運用している。 （ワークシート） （支援）イラストや写真を説明する文を作らせることにより、新出文型を視覚的に確認させる。
4	・Unit4 Scene①の内容を理解し、音読する。 ・外国人市民意識調査の内容を確認する。	思		・本文内容の概要や要点を理解している。 （ワークシート）
5	・Unit4 Scene②の内容を理解し、音読する。	思		・対話の内容から、防災についての概要を理解している。 （ワークシート）
6	・Unit4 Read and Think ①の内容を理解し、音読する。	思		・外国人の体験談から、災害時の外国人支援について理解している。 （ワークシート）
7	・Unit4 Read and Think ②の内容を理解し、音読する。	思	○	・外国人支援の取組について把握し、ピクチャーカードを使って、英語で概要を説明している。 （ワークシート） （支援）表現が出てきやすいように、音読練習の時間を長く設定する。
8	・防災や避難について資料を収集し、考えを深める。	知 思		・防災や避難について資料を収集したり、英語で書いたりしている。 （ワークシート）
9 本時	・各地域の災害時の課題について紹介し、意見交換をする。	知	○	・各地域の災害時の課題とその対策について紹介し、意見交換をしている。 （観察） （支援）使用単語や表現が難しくならないように、単語一覧を提示する。
	・防災や避難について注意すべきことを説明する。	思	○	・防災や避難について注意すべきことを説明している。 （観察）
10	・防災や避難に関するポイントを紹介するパフォーマンステストに取り組み、ALT と意見交換をする。	知	○	・後置修飾などの既習文法を正しく運用できている。 （観察・ワークシート）
		思	○	・課題に沿って、防災や避難について意見交換ができている。 （観察・ワークシート）
		態	○	・課題に沿って、防災や避難について意見交換をしようとしている。 （観察・ワークシート）

(4) パフォーマンス課題

あなたは、災害時に日本に住む外国の人々が、災害の状況、避難場所や避難経路などを確認するのが困難であるという調査結果を知りました。そこで、自分が住んでいる地域の外国の人々が、安心して日本で生活できるように、防災や避難時持ち出し袋の準備、避難場所や経路について説明しなさい。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒（男子 16 名，女子 16 名）の約 7 割が、「日本語の文法と違うのが面白い」、「英語を使う場面を想像するとワクワクする」などの理由から、英語が好きであると答えている。また、英語の学習で身に付けたい力として、「相手とやり取りをしながら会話を楽しむコミュニケーション力」が多数挙げられていた。年度当初の英語の学習から、生徒たちは英語を話すことに対して抵抗なく取り組んでいて、知っている単語を自然に言える力が身に付いている。さらに、picture describing や retelling 等の活動を通して、教科書を覚えただけでは自分なりの英語で発言する力も付いてきている。生徒たちは、小学校から英語に慣れ親しみ、「聞く」力や「話す」力を身に付けてきた。中学校では、新出文型を体系的に学び、語彙力を高めるなどして、表現力を更に向上させたい。

(2) 単元について

本単元では、新出文型として、間接疑問文や現在分詞や過去分詞を使った後置修飾の文構造を理解し、運用する。間接疑問文や後置修飾を使うことは、物事により詳しい説明を加えて伝えるのために役立つ表現となっている。

題材としては、防災や災害時の外国人支援について紹介したり、避難のポイントの説明したりする内容となっている。そこで、自分の住んでいる地域に目を向け、皆が安全に生活するために何をすべきか、また、何ができるのかについて自分の考えを持ったり、述べたりさせる。これらの活動を通して、世の中の課題に目を向け、よりよい社会の実現に向けて、身に付けた英語を駆使して主体的に自らの意見や考えを発信できる生徒の育成を目指したい。

(3) 指導について

生徒たちにエージェンシーを発揮させるために、既習事項を適切な場面で活用し、単元を通して扱われる題材について探究、課題発見、問題解決、気付きなどが活動に含まれることが重要となる。特に、生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために、各教科で学んだ既有の知識や経験を生かしたり、すでに小学校の外国語で使用したことのある単語や表現を使わせたりしたい。

そのために、新出文型の導入や内容理解の場面で、生徒同士や指導者とのやり取りの場면을豊富に設定したいと考えている。その際に、5W1Hを使った質問をしたり、感想、意見、第一印象、推測したりしたことを意識させたやり取りが行えるよう工夫したい。

ア 自分の住んでいる地域に目を向け、自分がすべきことやできることを表現できる学び

文構造の定着を図るために、防災や避難のポイントをについて発表したり、資料や写真から読み取れたことを報告したりすることができるようさせたい。そのために、実際に日本で生活する外国人たちがどんなことに困っているのかを知り、情報交換ができる適切な場面設定を行い、書いたり話したりする活動を充実させたい。

イ 防災や災害時の外国人支援への意識を高め、協力して安心・安全に生活するための学び

英語の学習を通じて災害時の外国人支援の現状を知り、課題に気付かせ、皆が安心・安全に生活するために何ができるかに対して柔軟に対応できる見方・考え方を養いたい。また、たとえ身近なことでも、自分事として共通して取り組むべき課題や守るべきものがあるという認識を持たせたい。

ウ パフォーマンステストの振り返りを通して、メタ認知力を高める試み

パフォーマンステストの際は、必ずロイロノートを使って生徒自身の動画を撮影している。動画を確認しながら文字起こしさせ、使用文法等の条件を評価基準に照らし合わせながら振り返らせる。このことによって、動画から発音と表情、文字起こしから正確な文構造・表現など様々な角度から振り返ることができる。それから改善点を記録させ、次のパフォーマンステストに生かす工夫をしている。

6 本時の指導（9／10 時間）

(1) **主題** 災害時、地域に住む外国人に、避難や防災について英語で分かりやすく説明しよう。

(2) ねらい

○自分が住んでいる地域の防災や避難の課題や対策について英語で意見交換をすることができる。

○災害時、地域に住む外国人に、避難について英語で分かりやすく説明することができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 Warm-up (グループ)	5	○災害時の写真を見て、分かることを英語で述べさせる。 ・ That was terrible. ・ We should prepare before disaster.	○授業を活性化させるために、感想も含めて自由に発言させる。
2 資料の内容理解 (グループ)	10	○資料の内容を理解し、防災や災害時の避難について把握させる。 ・ evacuation route ・ assembly spots ・ evacuation kit	○後のやり取りで活用できるように、項目ごとに端的にまとめさせる。
災害時、地域に住む外国人に、避難や防災について英語で分かりやすく説明しよう。			
3 課題についての意見交換 (グループ)	15	○災害時の外国人支援について、自分がすべきことやできることについて意見交換をさせる。 ・ We can join evacuation drill together. ・ We can tell foreigners about evacuation.	○話題を深めるために、質問も交えてやり取りをさせる。 ◎防災や避難の課題とその対策について意見交換ができているか。（観察）
4 情報発信の準備及び実施 (グループ)	15	○まとめたことをゲストティーチャー（留学生）に伝える。 ・ Daily life・・・ ・ In emergency・・・ ・ After evacuation・・・ ・ Near the sea or rivers / mountains ・ In our house / at school / at working place ・ on the street	◎避難について英語で分かりやすく説明できているか。（観察）
5 活動内容の共有 (個人) ↓ (全体)	5	○興味深かった点や良かった点を発表させる。	○新出文型や内容を含めた本時の学びを実感させ、パフォーマンステストに生かせるように、振り返りシートを書かせる。

7 研究の視点

○留学生に、日本の災害について伝える活動は、生徒のエージェンシーを発揮させるために有効だったか。